

「子ども一人ひとりを主役に」をモットーにした年長組の発表！今回は「ゆり組」の様子です！ <12/12>



プログラム10番は「ゆり組」によるオペレッタ「ヘンゼルとグレーテル」です。「開会のあいさつ」では、さくら組さんと同様、「子ども一人ひとりを主役に」をモットーとしている高ノ台幼稚園らしく、代表園児があいさつを務めました。いつも元気一杯の「ゆり組」さんらしく、はじめの言葉や「おねがい」などをしっかりと伝えることができました。

いよいよオペレッタの始まりです。見どころは「27名の園児が、一人ひとり役になりきって、可愛らしい曲とともに元気一杯に歌ったり踊ったりする」ところです。また、昨年の年中さんの頃とは違い、踊りだけでなく役のセリフも覚え、お兄さん・お姉さんらしく堂々と発表しているところです。



練習では、自分の役だけでなく友だちの役の踊りやセリフまで覚え、子ども達同士で教え合ったりする場面も度々見ることができました。また、お部屋でもよくCDをながしたのですが、曲が聞こえると自然と体を動かし、踊りの練習をする子ども達の姿が見られました。クラスとして、1つの目標に取り組むことで、友だちと助け合い力を合わせることがこの発表会の練習を通じてよく見られた「ゆり組」さんでした。



本番では、「今まで練習してきた中でも一番上手にできた」と担任のまどか先生が言うほど堂々と発表することができました。大好きなお父さん・お母さんの前で、ちょっぴり緊張した表情も見られましたが、ドキドキしながらも自分の役になりきって踊ったりセリフを間違えることなく言えたりすることができました。まどか先生も「オペレッタが終了した後の子ども達のホッとした笑顔と、やりきったという達成感に満ちあふれた表情が素敵で、全員を抱きしめたくなった」と言っていました。もう一回り成長して、「お兄さん・お姉さん」にらしくなってきたようです。



メロディオンの発表では、去年の12月から1年かけて練習した「カエルの合唱」「メリーさんのひつじ」「キラキラ星」の3曲を披露しました。練習ではなかなか全員で合わせることができませんでしたが、本番では心を1つにきれいに合わせることができました。「難しかったけど、上手にできたよ!」と、キラキラした笑顔で話す子ども達の姿が印象的でした。まどか先生も大満足の出来映えだったようです。

〈保護者の方の感想〉…貴重なご意見、ありがとうございました。

- ・今年コロナのため大ホールで見られなかったことは残念でしたが、一生懸命に練習した姿を見ることができ、とても嬉しかったです。最初は緊張していた様子でしたが、大きな声で歌ってくれてよかったです。
- ・コロナ対策で縮小となり残念に思うこともありましたが、少しの時間でも子供の頑張りをみる機会を設けてくださりありがとうございました。丁寧に作られた衣装には驚きました。忙しい中でも手を抜かず、一着一着作ってくださった先生の姿が頭に浮かびます。子供も可愛い衣装に身を包み、今日の発表会を迎えられたことで、またひとつ豊かな成長ができたと思います。
- ・コロナの中クリスマス発表会を行っていただきありがとうございました。いつもとは違う発表会でしたが、近い距離で見ることができとても良かったです。発表前の「がんばるぞー」的な園児たちのかけ声が聞こえてきたのも微笑ましかったです。どの役も衣装が可愛くて、こんな衣装を作れるなんて先生方はすごいなあ～と思いました！本当にありがとうございました。
- ・すごくよかった。市民会館の時より距離が近くて、見やすく良かった。時間帯、席がきちんと決まっていたので急ぐことなく、いろいろ配慮されていてありがとうございました。年長最後の発表会を幼稚園でやることができよかったです。「飾り付けがすごく可愛いんだよ」と教えてくれていたので、会場に入るのが楽しみだった。他のクラスを見られなくて残念だったけど、DVDが楽しみです。今までと違った体験ができてよかったです。